秋の夜長物語

全

WA 7
161

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161

ガラス使用

秋の夜長ものがたり

全

WA 7
161

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161

ガラス使用

宮内省書陵部
西田氏圖書印
小汀氏藏書
1004267

秋の夜長物語

それ春は花の盛りの頭のうるはしき
のさかりを秋の月の水貳いて伊よくさふはず
けうのしやうの天といふなく
しもいはとそ花を迷ひ人のしたはあか
ぬと思ふらんやり人あるそ人の八月ハ秋そ
さいとをいふ時はかんなふをおもちかたひと
なる天上のみをいやてしやうと秋りをむる時ハ
ちやうの別れりんと成ふゆへかちよ姫川か
ちしはきやくのけうをたの日ぶきあ
ぬ邪をやうのえやうふのえんなを月西よりは善
ふおもむりめ給ふなをとりけてりあそ

殿ばんの方をば御ぞうしとて
きたへまゐらせたるすちの
ぞうしにまさるべし
ほうわうのほうきをもつて
にはをはらひたるそ竹へを
ひろひ孫うめかあきの
実のをもしろ一中りん色らん
なかわの河の院のはやにて
とそうかくまんえんこうこ人ものあく悪い
ととうのしもとかくりんかく院のさひきやう
のりはこけいうひと云人そをりまつ内はは
きよくまんのなれば
つるをとかめらるとう
なうさうひさのの風をうく
けたわ所はそよん

道 学 兼 閣 裏 砂 背 水 黄 石 萩 白 門 室 出 高雄

おくの方はの袖うせはしめのちひをはくをあは
時はまひふくのはるこのあきこの上りふんぬ
のゆへいをふるう波りもんくのいうひぶん
数のうこむせけい孫のこの孫花のちふ所の
くれをんそねぬよ北方やはあたりをんこいそ
も何ようや我たまくうぐくちんのこやうぐいを
ちふきそしやくのもんこ室よハなくあけく
ま八たくうやうもんりやうこしてこ出ぬ
こやうこのはとめまをたわぬるあきまりう
等所ふかこと思ふんいそこ高雄ぬそわ
山のをくはもたはの果のいかわのこりりの
かくれの形も世すくやと思ひくほかこはふ

名 間 色

ふるまいんのつゆく所ハ人あとにそるをきてこれ
あるひなるまいりまいハさんわうのけらえんもはて
りさくとふこうこうまつよのわうまもさいこすみな
うわれ〳〵かわれ心いろわるあるはしていろいろ
ふ月日をおくわをるきこ後の門ふうとふあるとも
のおかあるうまとるふるやてうこほ〳〵ふうちん
おうこ三年きやくしていあやまはく三十年ゑう
をいつまの日う人きんゑいちよくのはなこゆう
せんとしてハせんゑゆふわ光かと
ふ思たちわるるのうふ
をの我をさはくるるやさはぶつがえの王
をたのうそはらうんをしやうしゆきんと思ひて

石山ふきうふてはく一七日うるハふたひを地ふ
あけて一心りはあとをいさしてをちんくんこ
うくせうひやうかうういといのわをる七日まん
をハくるはくるとしてすこしまとは
みたる夢にもこの空てうの門ふわふふん
ひまふふちふハいをんうさなくらうふけたる
りさち出てちりはのうへふ乾の方うけふ屋ちひ
たまハあれはうちふぬいあれをたるすいうんの
えんさんは花ちとたひさ乾て宮のあとをるあ
りりたわをるを袖ふはくみなるいのちを
くとも覚てぬふくれゆくなにきてみんを
覚ん乾ハさめあをれちよろんーやう

ものひさうもとうまもしてくれわしてみたりめ
もわけぬうふなちあり余ものさたるへきものを
まりやうにいなやなこころおこりくふとなりくまハ
ゑ城山ふかくはまくやと思ひ一ーんのりまきて
みえをふちらしをもうけはのかとをとるかきす
利川ーも波のうつこふ舟へをんかさおもふ思ひ
にえうねてそりやそなくさむと一ぬのかう
をたきそい仏せんりむうこうんのりみーん
きうんかうのくーりうむせひそをこう
ゑひこふてのはは思ひもをよくーきくーをまの
くふかう波ひそうんていりよきハ姫山のちん
ちくくをとなりほあをなりーゆめはのちの

ねもうけふふうきもくーはのけきけひきんやう
たひのはなんたも余ものはなくーは山王のちんたくふ
秋一人はもやとをうーなふい三足はるさ波さ
うさ波かのむふすなくーはとかあをひけひ一ーて
まりりうんをいうさ波山王のをーをおり一ーを
を心をさ波うけうせ孫ふまやたとひさ様のしも
里よ也はいのちいきてらうかはとうのさいう
にむうふ而ものさまうきんをれくれまは様の露
の男もあくーを今れと思ひ名ひ名ほりを名のくをん
をんをあううこちやてさうめく思てみ石山道ちう
糸をる三ぬ寺のおをすきをるふふ波ともをぬ
春波のあ不にあ波くくとりくれーふらく立

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

ゆ
ゆ
ゆ

のうけたまはりよんでよみ奉りはべりて日暮はて
とものかたりつゞけ給へるを聞いとゞ
のゝちんにひきかへてよるもすがらなるめるひぬ
あまをや夢のわかれやうけたまわりて
いつまかはるうきなるらん
兼のくれはみきのふかの面りゆきて此場のうち
りふかくすゝくふるわらはのいとをきるけ敷の
ぬきをのきるのみつすてんとそのかきそいて
くわあまをやこのふかちらのわらいなるらんと思
ひそならちわけるちとやはりんと云いかるふ
こゝはならんとそあとのかの敷くきをあり
うれしく思ひてこのふかはぬんをるをいきるしや

のをいうんめされて此弁のかと十六七ばかりに
みえるを世界ふ形さあひくん此はあとやをわ糸らさ
を形ふとゝへいわるいうちをゝそ我ふうそれは
うさうりのけるハ海ふりのまそはへは面ふ我い
うめ兄弟とゆは此里ハ花それ〻大ちんとのまそ
わ〻ハくゝ後わくゝさふくいはりわれあふまを
たふを。おれ〻めさをぬかとのをんゝ後わてまそ
ふ一度一寺のらう拾うを屋ふ巻ふれた
ふ一ま乃ふをゝそハ余面にちる心もなくなわ
秋の月ハくゝ後ふよゆいそ我家のひふをわう
そふ姫世いまそはを此此面乃此わ此まふのり
みゆるはるゝなくあわを形ふるんゝんをれ

ひわなりてとりいだしもとりたたいはとうくぬ
うさまとに向てはこをはくわうさをとうこ
りまうかはぬくうこをよをぬうせかひはうやとそ
かくわきくうをはてもいやくんもうれぬまい
屋うてはわらはをたうわみそはりのあをはて
まてもくうのかくをこうせくやとをもへうもあ
まわかひさけはくんもさすりなまこあへ糸
りはくみまう山屋そかくわをるをつしの差うう
はくうれかもうけにかをもをてあけき
曽こ思ひはこきるうこ院のこもうのうん
よせくもわなわこ人のあはぬはたつのいくー
てあはとまえこいうれくるいにあとよをてまる

きとぬはこあ西えんにはうまこ
ぬをあうはあとふひくふかわにくをはさた
のわらはをしくひよせてちやをのこ酒をう
へて拍ひきるはいておこうねのうちりくのちち
くふよくぬ物といまてねりぬきうあやふせん
まうあこのあうでヤかさねれくわたわらはも
くあんこのようきいろをうそよ海川こ後をへ
そぬこ屋なくくわうそむめりうきこり思ひ
屋よくるくこ後の屋こいはくはくはくはくもれ屋こぬ
うをあくりくれまりはこあをあきりてなま
わわはへ屋うてやて元んいくんくはこ思よ
くこ後をはくをかとのあとのくいくまくこ後をすく

はるもいのちをけぶるいと奇そくのわるそ
もゝをりやかのゝ花のおもひけす
ならそふ雲の海よう心を
とゝまくれくるわをるわらいふをとゝ流ふ
敢むして花ちらんはへとよいの月花やあれしえ海
の花のうけにたちぬ遠てはわるわは秋をハかの
うふえまへゝをて人を遠すはひうめなるその
りわをりやくれなは井にふかく敢てなくりわか
はゝえゝもてはやうふみえは楽命と楽まはうめ
ふ春かやうちあゝめてゝをゝ月むかをとゝんと
ゝ外ひをゝをゝろふゝわはせなる海なるゝの楽う
はとやらん云人のえを秋ゝそ円へのふゝを

志とて袖は問ひかゝりうくをしわゝハ恋んきあ
とひまのゝまちて日昔海をそ志ちうをたるふをよ
院はまとゝのはあるうをてたひなわわらハても
の秋くうれゝくていうきりの月てりたるは昔
志月もあやふゝ海らひで波み月もあゝきぬさ海
乃ていはひゝさえんまの見もあとゝくなくを志て
よれまをよ人はゝ海乃いろう
あゝなはくをのかゝ海よひハ
里は志はへんを秋人そんいのゝうれゝハ
さゝにたちうへ海へ美心もあをひあひんぬまの
まゝうまたはもせんうさなくれわをゝハもゝ
あだわのやとにあ秋もかゝうまわ余ゝなゝそふ

便宜

ようすをとゝのへさくらさくやとは思へど花の
まわりはそれもひさしけなきいはみちう糸りいはめ
うきしくもうふ心ハちうへとなるせをひめる
物うふやりゝそにいとはらひぬりぼ一山へ
かくゝわきるう一ゆ一わゆゝそハみりんこの
ゆきてなたちやゝまわ志きるゝとふ春ハ日なう
志と云ハ程ちうなさうりとハ置そうきそゆきぼ
うそ日られかそれをなのへんり春ふく
ふハこやようやくまわきるふもすゝ思ひ四志
てわちるふそれぬへのわゝんとそはきそいて
れともちひなハふいをうに付なるうあとを
わきあゝぬんふ小やゝ先られそれとつちわきる

ひきうへして大津ハうゝ見そおくうきりて西志
めやうふわ久れそのりさうちきそ大ゑひとれ
志ゝうりを屋ハりて春ふうかさ
そうけたるのハ見ますそりあひわたま
なるらんとそやりそれうめ嘉ハ中たちわら
ハすそ楚ハわ久ほりハ一とそはなふそや
中へ美あとあわてちゝぬ山きそをたつ糸らん
と思ひたるふうれくまハわ
てるふわらひれわてりぼ一うをとわてある
りゝなほつゞうへ楚ハらゝわきるそ何ほに
うを問ハわらそふとうちわりあとにこうま
なるもみちうさ海のうをやうハ乃ふまを屋てうへ

をゆるしなかぬふをとを取出していうなるぬふを
ぬふともせず一りう城を取へめてるひて海
いきと取わせさむらひけるくるくるすきち後
ほうひうやまりて一巻乃ほのほ袖のうへさらう
ハ露乃たをふきをうちわらるんいりつをきせめて
わうきをあけく分となりてとたをふをうより
てふをを見きハ
いはりわのほうををてらきわをん
わうこ後さへうこりのみや
ほ面のうをいこ知たるあ面とのをうのひハハ
をよをほらくほ産はてほをたをのひ海ををほん
にうけこきはへりとわこわいきりいいこなへ

八

八四ふうこ後ひうきてのはしみ三井寺
にりぬりこハをりのかをのをとりてむほ
城乃かくをんをよふ杉きこれを井湯をも会ほ城
なまりてう三か四のいとをふををわてて
あいちことも城あまるひさしてこをもんくんを
わうてんのうこあり粉なをしを日をたくわきほ
是ほをハをよくをんのあをきてをんら大内神
ふ七日をん後うするをいひて夜ほふなまへ
院けのうをこふたちまたきそほを出ハうほれ
こうけせんさいのくをのうをにうくきそかたる
にちこをもやこ後えたるこをあそ人間をかる
をなりめたるやうあひをもをれをそ出うをたる

んぢく志つるも中くくるしうやたら
みそなるうつろうろ城門の者かあらきわそ
人のなさけをらうゐのうちにをめとおもへはす
あゆくりてはかくわうへわてはゆきよふく
日数十日はかりわもはかるいはきそそと人の
いへはなるぬきんるもさりあれは日い我山へ
うへるくなんとおりひきる而ろうわるい来てこ
よひのうあのはあへうやうよわる人はいわひて
はしめえんめそひはるりもんもあいるくは
志ひんへいふけするうそ
うきよ見へ志ひ屋のよはのはへてと作らきんは
俗楽門はるてうれ長はは結ん
へてをりうけ

十一

ふりひすてくうへるるわをつてをきてん
うかきたまいあるくきそりのくふの我身せ行りと
をふけゆくうねのはくくと月のかをおきる
きそきうちうねるとうあふ
あるる形とするに志よ院のうあと城人の
うふいうたるみ志ひのわらいるふかたて
るるふのてうちんいかたるを入てをりたわ
それひうわかすうなあふ世ふはらこきんしやのをい
うんふよ屋のふうちちかきたるていそるる人
りやとかうわのりとふ屋ひしてきそて
かるあをやきのいかるる云りわなきあふかみえ
たるにりはそいはしの心たよくくしてあふ

ものもおぼえずりゝはちやうちんをさゝせうの
きこうけて不院の戸をたゝくとすこしまて
はゝ波りはの屋らんとあんないをれいはゝ
うさおもゝてちゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきこえてあはうをそかせきはわらハ又かなは
立入りしやはへんとゝやをはらこいさゝ
てつまとをなゝを真袖のうゝ作利うもかふふハ
りうゝわ楚ひてうちかゝゝふきなきハせんきんた
はゝ秋の世ゝのこはゝとゝはひえんてんたるのいの
まはすゝゝのかひ花かもゝ祢なきゝ月かもそねは
まぬへ寒りゝのかゝり勢ゝ月ゝうゝひゝにかくゝ
ゝもかよひかゝ様りゝあとゝなりゝへゝ波を

ともかはゝうゝとかりゝきのかのなりきるゝへす
ゝかゝらゝ風へ寒ひのあとゝもきゝゝ月なくをひやゝむ
きゝてらんゝうゝの夢ゝうゝあ屋くきんりの花わ
うまてゝかゝゝめりゝゝゝ秋ゝのゝゝをはゝれ一ゝに
あけぬとはくゝはゝ月の祢をゝうゝのゝゝくゝのゝきゝ
くひや屋ゝになわて立ゝゝゝれなをするにあけ
ゝゝのはゝの波とのゝゝまわくはゝなくゝゝゝの
たまハ祢みゝれかゝゝりゝくゝとかゝゝわゝるは
つまゝゝわまのゝのゝゝひかはけ屋のゝ上かのゝう脇あか
のかもへゝるゝりゝふかくゝゝゆゝるゝさはゝもゝきゝそはは
をもゝけゝゝみゝあゝふきゝてをまゝつゝかとゝの家わはゝ
世ゝかゝゝをゝりゝゝしゝゝちこ波をくゝゝそあゝのはゝゝ出

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

なわはるさのうまていまうの内八を八えをこの八うう
りうのうへのみならずねてぬるとうわふわう
いまてはいふとそうしをいとなわあるそえまを八ぎ
しもあはうう

わかそそりやとうやはてんさぬくの
波えうりわうあわはを八月
りはしうよのんりうそ
ともよんしは月をあこりの袖の露
ならはていく秋うはきあのうん
りはこい寄うはうかとたあ思八もりうう
はるはもはをあよあきうんはうるそてのうつり
かうと我りのかううみまそ山へのへるなまは

うう後ちかきたまよ志ぬううまてよ後はの人のの
云あともへんしもをはなくとしも行かえぬあの
たひとめよはうわてだうへ家そてもくちうそ
ぬへえからとうう後あとはのわとひううして
人ようたひんもをはしりまはうそ目をれくわ
寄うわらいはしうをつうへきてむめわの君に
うくとううをやしえれわのきてもまあとふれはは
はうなくうう後くうきうに思ひを摩れきそはは
けしきつしうわもうち志ふかきをひぬいはりや
れとつまむはと志りそうう後ふこめてきのちはひ
寄るりはうわり月うはしあるれりうををよひ
をてうそもあわ志よれゆめれたうちもうはは

すくふ事ふかとなう正ぬるもなくて狂へぬ道
いたうあるとのつゝさになりてはをまてふ屋うそ
を成さしほへ事うをハあるとやらんやをしいハ
露のいのちもいつゝなりぬらんなるうみくなわ
なハなうらんわをとひとをもをうひあいう
ならん山のかくなるもたつひりりやと思へ
世ヤかくるなくて海あるかふいもんをハ山も
さうと思いまてをれもうれりひ思もをう
ぬあさんのたゝ云けてをあとのは城海あとかか
まそわをふうをつをしもたかせをわきうやを
の社ゆもわををふへしそいうなあとらぬをを
色くをうのよふ海嶮もたけひてりとうら

竹へハさすうふまるひとけのあをあてうをあて
又なくへふ思ひつをぬるハまをあゝわさををを
なうひあれくるあとりわ屋とわうい思ひをわて
真人をあわ不をは今をしくあ承てへをは御うも
ゝりんは不のをよいあしくへをふ何をゝ
をを竹ひひへをてちことりうのをとをを二人り
をきううをわをををたちををかくわ者ハりをよわ
も三代をうきよくの家よひ海ををうしゆを屋
もの中なをてをうわゆもいぬたていとをあゆ
ををふをあけをハうゝりを屋みうこふたち
ゝまわ文かあゆ見うぬをを竹ひをうわらハあ
まわのいをうさふほをれてんくをけ者城を秋

おを取てひへの山えのかせより吹ひてうち
さたの松はなうけしてやすみのたる所は筆の
いとうけたる山ふもとの四てうの京たのをは
うち〳〵波おにうきすへさきてあるいのくるま
いはちへは波をいはなうんといひなれわらはきの
まうにこうへくるをなをまうしうまわれわてわき
ちうはちうの移はちうの世なるへはうのかはは者
まてんへはまりのおはいさりくえ系をはへは
我はかちまておゆをはりんはうふりはは色を
てらこをりうはをうきを系てか者十二人るのとふ
うあとくおゆきをうあうくなることをいのと
まんくたう雲かすうの中をわけてへんし

乃あひうさよ大砂移はたちや
うまもてゆきかをわる〳〵はりんこやくをたく八
たる石の波うのなるに移このておきたまハ月
日のひかりをみえすの泉ひはのはちひもなうう
うく男女それ数あのと学てたくなくあのの
そやはうりをうれ東ふわりう悪りせうせ移ひ
たるるたくあとなるひとんしのおはきはを
はおきていはぬくはもなくはうの移あのはき
せそれゆくえいはちをとも知たる人さうふなう
りの係とうりを東うのとうの大津へとをは
たひんのあわをるかりりあひてうやうの移きあ
ひかりうハ一人めりをしてきのふはりれいぬの

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

らくいろいろにうつさるゝのうへにあつまりわかれゆへ
しるとう様ゝなるをていはゆるまんくしゆひて云
おのゝをのゝはしのゝもりのとやまもろいうさ海あと
へらわてきなとそのんけの間いやまをよりし
一寺のもゝとうつさうなゝのめなゝしゆりんへよ
せんするあとといかなるへゝらしたちのれかゝも
もわなるゝもあるゝ三きうしるるあ越のゝ
さうのていをれはよをそうゝ見やせとそはもん
とのたゝのゝ百余人いくくちうにさうのていさ
条さやうゝくへれしよせて一もろこさやきし
らふをんあうもるのもゝと見うそれいきとをわを
うんをゝ一出一同せんさゝをゝいもちよ

くあをゝりをへゝゝをもゝるせんゝはるゝてをゝの
てさうもふもぐうゝをきをかきへ三まやのいたん
をそいさうんもんの大ゝ山はゝめてれいちきん
をらん光別ちのりうはるゝてあるきをあゝをを
りりあとみそしやもうゝをもわけてひかうを
ひ波むるみちなるへ一天ちくゝかはをあゝえなわ
ゝをゝゝくもやゝゝゝあへかゝを一見ゝうもんの
ゝゝゆと三ゝ余人およいこえをあゝゝりきわ波も
とゝさうもきをゝしゝうゝゝもけく極いはりして
三まやゝいたんをそゝそられきるゝ山のあい見を
ゆてのゝりハかう言せさゝあまゝひたんのあと
ゝをんゝもやう之へゝ波ゝるゝいきんをてゝ

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

六ッと也くゝ者ゝそゝ小しゞを小遣うつゝ所
まそもの所へゝゝずゝ時をゝ所さゝ行ゝよをてや
きはらんゝそゝまつゞゝうゝはゝしゝや三千七百三ッ所へ
小遣をゝゝるゝゝゝゝきんゝゝのせいゝをゝつゝわて
をせいはかゝ代万七百ゝゝゝゝゝゝゝ所ゝ
十四日ゝゝゝゝゝゝゝ

せうこんりんいんさせんせうこんやうめうらんいん
すきをとめおさいまんくうさいたうゆはこやう
きせうこをむくやうもうなんうんさいくやう
きゆみはいきやうちうこやうりひゑらうんゆは
せむわうをむちうゆいんこたうはうきしそなを
あはをあををみをくたもあえんまんいんりをにを
ゆうたういんりてんくそはチんきりのあうさぬ袁
うふまくりあたゆふハ方屋みわりむうーかう三
てうはふてりきやう一ゆうさけきわこのうの袁う
てうかうたうひふ袁城をーまたのうへくあひ
たくううよをては行はせいふれうくはくおもう
べくみをふをきてはのんふひしやなわうれいく

りくのはまわくふよせわりあおひえくく
あひたくうふ三をきりりりうはきんりよをて
三ふ余人ををれひそりんこりんこやうなわけまハ
こやうハ四いはくうこに楽てをうおをまり
うちゆはかくてはくのこやうこんみらひさいを
あはくもれとーはこーせみえをはるけいうひた
きまいうわてゆーふはいうんりんすわれるハ
よせてせめーすはてうこうゆもこいとのたく
うひあをよれとらはこいの袁こはあををめうね
たくすいをのたりいく行もなをかり一つこふん
めそうゆたらんふなをからのこやうせめやふら
さうんとくうをんはこてやをんわりりうこせ

い城中色うハをとひわかてうほうわふえん
たるきのきーの上へそのうえいうん波ぬじてもれあ
うわぬ利波りたるへいそらふてうちうけゆ
らりとはおろえてかるき三百よ人かゆ色みを
のてひ花をちらして楽きぼなわをるさけこうわけ
さうけをるまきをうむあそりて一ろあをさ
ゆてすくひおひけおりをやうまたれ一のそう
ひおりいうつ波乃波くわきりらんもんひか
たくもてかくなハ四かく八方波きぼて波りわけ
るおよひこえをふをきをを波三百ら人足おも
たゆれおひ直ろを思ひくまおちてりけいか
いか同窓ろたうの百よ人いちりもわてゆんく

たくにひどかをるに波うをたちまちふ波ひ
てよえんをりうまれかひ弓れうんさうかうさう
しの波うたうをやうさうをやうけう三まのりあ
ろをさうふをんたうをやうくもんにちりうたう
けいうひくををやうの波かんかうちをう大昨れ
波色いさう三もんををの波かうふ波をそそふを
て三千六百余一波のりをとと波はてくをんらた
の弗の波をやたんよわかをひ乃ことは不一とをわも
なりりくわさ波をまりをさ三弁をの乃やう
をなわぬる杉もをわ杉りをを石乃波うの中に杉
こめををてあけられいあけきを居をそ杉りけ
ふ西よてんくをもあつまわてをのを山の波かなも

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

しそわらひ久ふうわきらうがもたゑさとおりふ
あとくせうまうはう　風こいさうひ猫のをまう
ひのいさ　ちうはかうれうゐんもうんもん
なんとのえうふわゑ　ぬの御うのもんをそこ
きらにあういくふのゑ久ん姫ぼもいそきそ一ふ
せいきと思ひはるゑきのふ三井ちのうはせん
はきさいのえるれをやそいなゑ天きう
くらうれむめわうゑとわたわゑうやさ
らいを狂ひいくさハ出きーーえやうこはの門
しめたちかゑたこゑふへはけきせ竹ふうおう
さに我ふうをうゑ奇を続てさうらふといはな
うはゑてんくゑとふをやとへふ

うう者ゑちち三井寺のあわさ風屋
ひばくわてはゑをのをそなく
とふをてひはるをうをさまゑ産中れてんくせえふ
えはかゑいまてそりひ者ろわのきをゑあをを
実竹ひてゑあのさう竹やそをみぬるりまゆへ
にゑ為ひり者ろうやと思ひ竹へをもくをしを
をふ八歳人もなりたりりいをとをゑうちわひ
てなくをわかゑあといゑ一わの君かくをうる
しやくゑくりこけゑわの主者をを袖ぬまて
ふををの面れうんく風そゑ歳
かくをををとをゑゑあはちの面のをんをつとて
八すりをなるらうれうの部んりはいとをゑくや

世たかくふをたうてこしにいはをしめて色も石の
ふうのうちへいとわ一りやう日わりてしおきな
ちあとくわらをのかなたかうしむをえそりーとけに
そそやぬきていやくーはちこもわらいをとるもか
すこみれ一面をうりそあなくたちいてくらの
りのかうふおーくめくまてメはちくくゆ
をやうのあけき思ひ屋くはたひあとおふえく
おちすせ云うあけきハさうハ整てもぬまひ
らめくうこくえきるらふおう大きくよはくひて
さいはく我ふとりはうせ竹へた屋くふ原墨へ
つをふらせんくそおえれしちこのうて我をかり
てくるふくくなまう伊そをんのとうくくわくそ

ふみたの露をたくりたりおきな世露をひたわ
りてふへてくすをくるんするあとくふをはよ
露のたまを雅なくまわりの世せいかなわぬあまをみ
わけてくうりたなちくふふいまてをくくゆる
うのたくふこりはいをくるひよ大きなわて石
りふうのうちくふくうくたる大れを成ふくわ
この時にらうおうはうあたりうり成てくひ
てむりはくみ地成くこいふひのりのひくわ
天りひくくくもせのりをきをおちわなふ
きて四方りふけうせくふりりうわう石りはう我
けやふわてちあとまらいとりくなくはあくゆる
とくわりたうくく男女くをはくてくいりりくう

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

ぎきたんをんえんのかとりおそれたるわ
たりはく男女みゐあまよりわきてものかさ海
くにかへりぬるまつの恵とりくれとは我ゐ海さを
をたつのて花をそへゆきゐ孫ひまきハ河原をなる
へてはくるわたるわたくりてむ絵うかく皆屋けの
くくとなりてるとくへ来人もあーあこりなる海俗
帰りてあとのやうたつのとくへハ左大臣をきん
ならりのさくをひ恵のぬハうハわきうせ竹ひる
をはさとゐ恵絵ーめさまぬるはあうたとそ
三ねるるわれりをてやきりくりてん也とうう
たわ々海おかくのはりりえとうんあと立よ海へ
きやとものゐ恵去く三ね寺ゐゆきてりんあわの

はるねもうつひやえんそてたとほくくわらハに
ゐとひまて三ねるにりてゐ竹へくふはかく
ぬうかうも一はもりくらんやきくうきてうん
ていの第の嘉よゐるうくうんの松風のきんほる
見そまうすくをむりーの松よとそ見きハりを
へのいをもやけくくそこはけのみとわもくれゐ
ねるへんをのきくのむめるはうきて袖なるー
きにもりーねるるうりわくそあるよれありきた
くく我故なわをわさうひゐれちんりよゐもたうい
人口ゐもさあうかくほらぬやとあるくく学てて
見うる目をあてくまゐとるなうわを行くそを
夜ハをんら大内弥ハはをいてんにをいの用を

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

なりめてあさはかにこゝろ志やうこゝろはかりにい志
ゐるやうに産きらんとうつねりたる世ゝあるも
ゐさりとやせきわるいたゆくこゝろひはさん
けいのゝ人ていまてかんさうりはさゝ色れ
ゐいゐへまうわのかわひてをつゝのはゝ傍をた
ゐるとはりんとやれ嘉今いたくうき世ふさ
志世ふかく思ひさたゝあ然ふゝ後あわてゝ産ゆ
ゝとわやゝ恥る人なくいんれまぶにいうなるふ
ちゝも身を産めんとうゝ産しく形りめされて
ふくくゝふゝをうふ形ふわらはゝふゝ敢てゐへ
易のかわたゝいゝ世はゝしゝりゝはをうちゝるゝふわる
文りゝ物もいひえすはあくゝうなゝ考ふりう

ゐもなゝるゝをおゝのゝひてはるりわはるゝるゝも
ゝらんせすゝハまつはゝふゝをえひりんゝをお
ゝひらゝたるふあやゝはゝるゝあり
わゝ身ゝて産みはてなゝ姫うゝせり
うゝゝのてゝうをやゝのゝてはゝ月
りはゝ名をうゝなひてゝ見はゝらんゝへはゝうゝのん
うゝなくゝへはゝ伊ゝもゝみちをゝうはゝ物語ゝゝ色見
いそゝきのいりはりんゝうそゝさうりをゝわゝさゝふうり
たてゝ和物もゝりあへはゝたゝゝ人むゝちをあけて
ゝうゝをりゝ産ゝ大津をゝ通てゆく面にたひ人はゝま
たゆゝきあひてはゝ在りゝゝ産はゝらゝいりゝなはう
ゝらえありてゝ方我ゝ然ゝはゝらんゝちゝゝゝ作ゝ

いとうあけきはりんをらんをいひてと後はあやこ
屋と思ひてくるしくこひ給たひ人をやくきまわ
てたくいきの世をのきーをわるわは雨おは年す
六七ふみえさせはひはちこのこうはいのこそそ
にをいいんのトいりめはまてすふむりひて会
佛十へんこりとおへてはあをあけををなこひ
うあ程にはまわいりさに我ふ屋のてこた
ふのくうれ道の姫ちのうこきそさあ一をめ
トいへつまはみえうせのひいりをこらうなくは
うすきトム宅様てうおんこをくくとそこ
りをるはひ人うこはを安てとトの程ひ志やう
のやうう六うとこ後ふ日れ系のはしまわらい

も心わきまはけてもふへて屋おてのりぬいまん
ちをれはるをもやめてりのはめにりてるる
ふりのもはあををうふそ
か程をのはかわふへきろりのもあをとうんて
をりりらはうけをまたわ光をんそ三はもわ
ちのもれあーなうまにあをを志はりんとそこへこ
かまふのあ後同宵のうまあをまわてやめ
系ふーや真むなーきうあをまわるあうを一月天を
後にあうとをくくもなくあと思ひて二人いとも
ふはなきはそたるこ私はのわてふをぬちのそ
こ後のはきりとひをはさにあーわうをしも
くもやうをとをいは皆えたうふ後ていをのはを後

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

きーのうけまそのこゆ所をくさーけまともな
ましかくて遠小時うつ[illegible]てくこのせといふ所ミそ
ものとめくたかれをかまそとはるもみちものく
きなひあさのきりのこもみえていくのうける
なのきかうわなるけしきのきを私こうをてえ
れ所をむあーなかかみてけ微かこなれ
もかえるきかうの岩こもを波ふゆゝまぬたわなく
くこのあけてあかをひさようなる楽たまハぬま
てなこきくれおいまかくたるふ宮のあと
く成む孫のあなわもひへそぬみまておふは
ゆすこのいろかきそかうのこのうみわ
けふ変あかはうハらね波一たひ点めえ面ふうひ

あわこ海ふもわもあとかかわてのろんこぬまハ
見るに月もあてられひるこのあとはなるはへ
こりはしへうかをひさようふのをて天ふあふき
てふようかーむりこあをとふとろるひて我
をハなとけておうを妨ひをるそも地ふあうふ
こひけまとるらつくるひ元をりるをこて二たひ花さ
くあーひなくさんげつるにかるふ美てみ中宮
ふりへふあとあけまハさけふあうへうまつる
てらのあみた袖りれとうなるまを宮二人の思
ひをりふに及をとうあ西くなとのりのまてもあ
たわのこるふーー海波ひてあふもかーまたな
きうあーむうくてそしもきへ変のなう語ふを

よやそちかゝる山のとゝ
ろへ行てむなしくふ
ぼとなりてはすゝしゆくわうさいくふ
ぼきえうんきうものはしりとなりへら
してひのきゝ煙れふむうひて三日きそなれ井
たゝわきうれかりこけのあるうたれくやとい思
ゑとゝもといのおもうようそれくわ妙ひこ此奇
めもうこきそてらをゆのくの月とゑこいなうう
むわとゝふらんとのたゆまそふうあまと思ひ
くれちくまわ屋よへもうへらたれ山いくつを
くひかくそこんうんとうこゑるうなまを面
山いいくらよあんこ屋ゑむすひて地ほとめれこ
ふひ考ろわういうみをれ海ゑ山ゑそとぢ

りわ考ろきりちをんゑ面ゑの三ま屋うひたんり
ちやうこゑやうりこゑ三十余人今いきかゝわて
しわうこすへ家やうもなうれ世中もあちき
なくれぼこてくふりこうんをゑ思ひくふうこ一
と志ゑんへ泊り立かへるこなひせうゑんくり
ゆうせおもをわかはこうんしゆりりいと海おも
ゆさりやと思ひてくなくえんら大内弥りはお
ふはやして光ほうここわりはりみをそちけ考る
家妙こうれなりて京ノうはりさうひもうぬ
に初んりりうこのこくうゆ馬城りらう
車をやくはうすうえしそれひたくしきさい人
かうあくりきこわゑふいきりひあわあやしを雅

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161
ガラス使用

ばらん宮めあうまをとあまをとをとこをとあふひいかう、
むの大ぜうさやうはやみえたるうぜうぜうぜうぜう
うかゑてちうそふの大ちやうせんこみいかう
ちあふひはいくらんたくしゑくちのかく
うのちうをたいきふすいひやうをめうあふ
いてふうちよくせんきんたるぬへたいきんはあ
をうさのたるにのまてちちとにかうりをはお
きんきんのうふまてたのうはなひちさうへわあ
とにさうわたるちちやうふあまいりのあふへふ
てはありるそと向いいはたしせかひひりをなたを
ちうさうあかはなはは日うさんわうまそはわ
なわひへとそ巻をるひしやうかくふふう車

前元
囲続

よわはわわあのてはくの内へいわ竹へいちんら
大内神なのうふりをうさくちいきをあい
はくあいきんのうちよわいそ竹ふえんちあはは産
ひなまをまてきんしやくのちをいをふちをのちえん
のわちんら大めう弥なまのうふ城うふけて
城にはんたのちをたきへはけはしきあそよはそ
ふあのんとすまをい山をんきをよはふうやう
ちむちをんのそやきそおくわちわてかへうを殺
ひぬちんら大ろやう神なまのりり城はあはゆきあ
まそたちうへうをのひろはは時はうやのは大ぜ一人
うやうちんのはおりひさまはまてふろうをな
うてやろはのそ三まやういたんのあとをぬう

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』　請求記号 WA7-161
ガラス使用

のちよくさい小まうをわのちかうのあと
をあてこうきやうけうまれる事まそんへな
一もしものひとのをとはあしーんりをし
うんのんへくりよしひくのちらよくさいをうむ
き縫このはゑやうをあーてうーをやよう
ひはまハこんめいハはたもさうけんをなをは
はきひらんとうそんしてひふうう寺敵たいれ
うんにたうこのかこむうーうんわうにたひして
波りちゑ後きこゑをゑくえんこのーみをな
うせけひんハりう波こんをうそひやらんりう
うこうそんこんへとやくれめうこんはりや
のこうを清きえりめうまてこゆこのうーえ

ゆ而一わうそれいわきあふにふたりとい色とも
見ハ皆一くのくそんくんなりわそれちんめいふつ
たのりこやうこうへんをたふ日かきを行て
ふくをあこへ竹ふ唐のかはひいみたうこあき
をひしそこらをかこなふもるこひのかもうわこ故
也たくこあつきやくのこさうをりけてつ年にひ
こやうかたいおいくこめんりたあそれこのよ後
こふ而人いきのたこるへくのらふはふく紫うりう
のあ屋たるいさうこいするふさいせはのこを屋く
きへくきやうのんこやうけうのの佛こ屋こふい
あきをあるよしやのけちえんたりいのりうふつ
ありこあうめはのさうなくさうんやたくあき

やうる利およばてけいうひかなはさんしてくく
くりけさうをいさうんとぶるうまーさよりんぶ
をまひきぬるはや山王もこきをうんをおりんた
めにらひまんの我もうんたむかえんさしてくを
ひうの心をおーけうる也石ぬよくうんをんりとう
なんへんうのとくを庵おとにあわかるき大ぶひ
城をやと作ーまて四弥きむちやうりの円へいうを
竹ふとおはゆきハ川うやを穴ちう三十よ人一とか
義ちあてれおーさ庵おうたわきぶそいわす義
の者おけ竹ひーもくりんを乃ちよ色むおわー
もんりやけたるもさいとのはうハむなわとぶん
くきちうめりーけきハ三十よ人しあとそな

かはきんしてうもり仏をあちやうせんと
てうれけいうひをんさいと人を城うへてすこ
弱ふいくくくハのんを庵へたりりてえきハ
三をんりまやりなうえ城くもかわうそ松りおち
こをたきてとーてりうこのみを家ぞりこりり
年をたくわ竹ふうきよれを義りさ庵へくと
おりーえ月りひうわをを庵へうそ
こうひ屋さうこうまーふりりうん
竜ちよぬんりうへふうよ付にをるを作門ふきわ
なくをいうんりわてをんこきむりしはくふの
ふか老ハさせ弱ひうふとくかうらんとやお庵よ
あれいとふとをれうをれおーさ庵也さうもんた

人ゝさいしやうなんあり　ゆうそみやこらうな
ゝ　ゆうかゝ寺をたてゝ人ゝもりをくせんとそひゝ山
にうんゝと云ふさう城うんりうてかんそん
よ三そむらにうゝりきをおこなふ古ゝの菩薩さ
かくうやうゝやうゝりへてうゝ志やう人をせうん
ゝふゝかゝ寺をたゝ人ゝ志んくをおこさずせいふ
ゝ　をんゝうんゝひををたゝてゝおゝひけい
ゝ男女ゝなゝ寺ゝあり給ふをきやうらいすゝと
けゝ大師ゝゝうんゝゝわれゝこゝうのなまゝ海ゝとに
たんせきとかゝゝゝゝ人ゝゝ海をゝとさすと云
ゝゝなくゝて無せきゝゝりなちひてゝりきる
となり

浅井氏藏書

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『秋の夜長物語』 請求記号 WA7-161

ガラス使用